



昭和63年8月25日に起こった、留萌史上で最大最悪の水害。

昭和63年8月25日、留萌は日本海側に停滞した前線の影響で、雷を伴った集中豪雨に見舞われました。その雨は、夜半になるにつれ更に勢いを増し、とうとう排水溝から水があふれ、土石流の発生や、

家屋の浸水のほか、農、林、水産業、商業などに大きな被害が出しました。この集中豪雨による被害者は、3710世帯、9499名。被害金額は、なんと61億7913万円に及びました。

わたしの水害体験談

誰もが予想しなかったあの日の大災害。当時、花園町3丁目に住んでいた竹内睦紀さんに、その時の体験を語ってもらった。



睦紀さん
竹内 睦紀さん
(堀松建設勤務)

私は当時、中学生でした。26日の朝、避難警報が出され、とりあえず祖父の家へ避難することになり外へ出ました。ふと船場町方面見ると、道路に水が見えました。でも、「自分の家のところまでは来ないだろう」と思っていたので、気にすることなく祖父の家へ向かいました。

ところが、祖父の家に着いてまもなく、家の前の道路に水が溜まりだし、ドンドン増えていきました。家族全員がまさか自分たちの家が被害にあうとは思っていませんでした。家の貴重品類をそのま

まにしてきてしまい、兄と私が家に戻るようになりました。家に着くと玄関のガラスが割れ、灯油タンクや流木が浮いていました。

「中はどうなっているのか」とドキドキしながら茶の間の戸を開けると、水には浸かっておらず「床下浸水で済んだんだ」と一安心。

ところが、兄が靴を脱ぎ、茶の間に一歩足を踏み入れた瞬間「ズブズブズブ」と床が下がっていきました。じつは茶の間の畳が床下の水に押し上げられていたんです。急いで、テレビやステレオ、貴重品などを2階の部屋へ運びました。

なんとか作業を終え、私たちが祖父家宅に戻る頃には、道路の水かさは私の腰すれすれまで来ていました。



◀ 7:30に避難勧告が発令され避難所に人々が……皆、不安を隠せない。

水に行く手を阻まれた人と車を▶必死に救助する消防職員。



▲ 水圧で押し倒された家屋。◀そして、大事に育てられていた作物も…。

どんどん増していく水かさ。▶住民はただ見守るしかない。

